



## 「佐渡米」現地研修会

7月4日に、農業技術センターの圃場で佐渡米現地研修会が開催されました。「佐渡米未来プロジェクト」の品質向上サポーターなど120名の米生産農家に参加しました。

研修会では、7月の重要な作業となる穂肥時期の診断方法（幼穂の確認作業）と穂肥施用のポイントなどを学びました。研修会の指導員からは、穂肥施用の適期を逃さないように詳しい説明がされていました。参加者のひとり「今回初めて参加しました。分からないことをすぐに質問し疑問が解決できて、とても良かったです。今年は全量1等米となるように頑張ります」と話されました。

研修会の中では、平成29年度から一般販売される水稻晩成新品種の生産・販売方法やブランド確立に向けた取り組みなども話題として出されました。この新品種は粒が大きく、その食感には粘りが強くコシヒカリに匹敵する甘みがあることから新たなブランドとして期待が高まっています。



近くの田んぼをそーっと覗いたらニホンアマガエルとヤマアカガエルが・・・。梅雨の晴れ間に日向ぼっこをしているように見えました。



## 農家紹介

**青木健一郎(61歳)** 佐渡出身、高校卒業後島外の農業専門学校で2年間学び地元に戻り、家族と一緒に農業をやっています。

経営面積は柿170a、田んぼ320a、花の採種3.90aです。

青木さんは「花の採種は昭和52年頃に、友人から花採種の技術を教わって始めました。花の採種は種苗会社と契約し、指定された品種に取り組みました。採種作業はとても細かく、花の授粉は手作業なので大変でした。毎年違

う花の種類に取り組みるので、作業が大変な反面、楽しみもあります。良い年があれば悪い年もある、常に初心を忘れず取り組んでいます。冬に柿畑の落ち葉を運んできて土に混ぜて土壌改良をしたり、花が病気になるように健康でいられるように工夫しています。農業は休みなして大変だけど、日々・年毎に変化があってとても面白い、楽しいです。これからは後継者のことも視野に入れ、家族と一緒に頑張っていきたい」と笑顔で話されました。



今秋の13回目の放鳥に向けて、佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションで、19羽のトキの野生復帰訓練が始まりました。約3か月かけて採餌や飛行の訓練をするそうです。放鳥は9月下旬の予定です。



## トキ情報

## 東アジア農業遺産学会 in 佐渡

佐渡市は平成23年6月に世界農業遺産(GIAHS)に認定されました。6月23日、農業遺産認定地域である日中韓3カ国の各地域代表と研究者らによる「第2回東アジア農業遺産学会」が佐渡市で行われました。この学会は、世界農業遺産の取組を一層推進するとともに、各地の取組への理解を深めようと自治体関係者を含む約120名が参加しました。

24日には、国ごとのグループに分かれ、現地視察を行いました。佐渡には3つの世界的遺産があることを説明し、先ずは「世界文化遺産」登録を目指している佐渡金銀山の近代化産業の遺産群の視察を行いました。また、「自然遺産」として世界ジオパーク登録を目指している、相川二見半島階段状の地形を活用したため池利用の地域、「世界農業遺産」の象徴とされる棚田地区である小倉千枚田、等の視察を行いました。

また、新穂地区の佐渡市認証米圃場のビオトープで、生きもの調査体験を行い、参加者は虫カゴと網を持って、用意された長靴で、生きもの探しを行いました。皆で熱心に探していると、ドジョウやタニシなどが見つかりました。また付近のほ場に舞い降りたトキの姿も見られ、参加者は大変満足されていました。中国から参加の研究者の方は「田園風景など佐渡の環境はとても素晴らしい。自然を生かした農法で農業を営んでいる。皆さんがこの美しい佐渡の大自然を大事に守ってきたことがよくわかりました。」とおっしゃっていました。



生きもの調査



小倉千枚田